

「技術革新で役割大きく」

九州工業大
情報工学部 創設30年記念し式典

九州工業大情報工学部（飯塚市川津）は27日、創設30年の記念式典を開き、写真、学生や教育関係者ら約200人が訪れた。公開シンポジウムや高校生向けの体験イベントなどがあつた。

情報工学は、コンピュータ、情報伝達のネットワーク、メディアを3本柱とした研究・技術開発を主な教育分野とする。同学部は1986年、日本初の情報工学部として飯塚に設置。これまでに約1万1500

人の卒業生が巣立った。

式典で、梶原誠司学部長は「人工知能（AI）、ビッグデータ（蓄積された膨大な情報）などの技術革新が大きな話題になっている。本学部が世の中に果たす役割はさらに大きくなる」と式辞を述べた。

東京大大学院情報理工学系研究科の萩谷昌己教授が基調講演で「情報に関する原理や技術はあらゆる分野で使われるだけでなく、社会で生きていくためにも必要。社会と情報システムをともに設計することで情報学は一つにまとまる」と語った。

九工大情報工学部は、2018年度に大幅な学科再編を予定。進路選択のミスマッチを解消する入試改革や、就職の「出口戦略」を見据えたコース設定など社会の変化への柔軟な対応を目指す。（座親伸吾）

